

KSKPコリアボランティア協会ニュース, No.22 (1997.2.20号)

コリアボランティア協会編集部編

発行:大阪 : コリアボランティア協会, 1997.4.10. ; 8,[4]p

請求記号:震災-7-z82

※震災関連記事のみテキスト化しています

被災の青少年を育てるために...

やっとの思いで仮設を出たものの、その2日後につれあいに先立たれ、ポツンと取り残されたまま、仮設に戻る道も断たれた方、又、入院したものの快方に向わず、仮設の自宅を気にしながら療養生活続ける高齢の方、さらには、アテなく仮設暮らしを続けている方々がおられます。

避難所、待機所、仮設は益々統廃合され、より困難な状況の中に、散らされ、或いは集約されていく方々が増えています。そんな中で、自ら被災しながらも全てを投げ打って、他の支えとなってケアを続けている方々がいます。多くのボランティアがその支援をしてきましたが、殆んど福祉の援助もなきまま被災地を去り、復帰のメドは立ちません。

以前紹介した松原第三中学に「文通サークル」が誕生し、被災地との文通が続けられています。いい学校は沢山あります。もちろん被災地にも...。しかし残念ながら、支援をコーディネートしサポートするボランティアが不足しています。当協会は、地元の青少年を育成し支えることが復興への近道と考え、急務として常駐態勢作りを進めています。福祉の立ち遅れはありますが、あえて金にならない“仕事”に取り組んでいます。応援して下さい。(鄭チョン)

[写真あり 西代仮設(長田区)にて 省略]

まだまだ続く!!街頭カンパ活動

阪神大震災を風化させないデッ！

あれから3年目に入り、私たちは今も毎日、大阪はツルハシと布施の街頭に立ち、カンパ活動をしています。「寒いのに御苦労さん」の声や学校帰り毎回カンパしてくれる女の子や、「私の母も被災者なので...」と入れて下さる方や。

お金も大切です。でも、あの震災を風化させないデ！の思いがどこまでも広がることを私たちは願っています。
